

薬の伝言板 消毒薬



No. 273 2020年 8月
丸子中央病院 薬局

★消毒って？

消毒とは、生存する微生物の数を減らすために用いられる処置法で、必ずしも微生物をすべて殺滅したり除去したりするものではありません。熱（熱水・蒸気）や消毒薬を用いて、人に対して有害な微生物または目的とするウイルスや細菌のみを殺滅します。



★消毒法の分類

◆ **物理的消毒法**：消毒剤を使用しないで病原微生物を殺滅する方法です。

煮沸消毒法	沸騰水中に沈め、 15分間 以上煮沸する方法
熱水消毒法	80℃・10分間 の処理で一般細菌を感染可能な水準以下にする方法
蒸気消毒法	100℃ の流通水蒸気中で、 30～60分間 放置する方法
間歇消毒法	80～100℃ の熱水又は流通水蒸気中で1日1回、 30～60分間 ずつ 3～6回 加熱を繰り返す方法
紫外線殺菌法	通例、254nm付近の波長を持つ紫外線を照射する方法（表面のみの殺菌）

◆ **化学的消毒法**：消毒剤を用いて病原微生物を殺滅する方法です。

消毒剤の効果は、消毒剤の**種類**と**濃度**により決まります。消毒の対象が生体か器具・環境か、あるいは、適応部位が皮膚か粘膜かなどにより適切な消毒剤を選択する必要があります。

分類	消毒剤	使用濃度例	備考
アルコール系	エタノール	76.9～81.4%	手指・皮膚の消毒
	イソプロパノール	50～70%	
塩素系	次亜塩素酸ナトリウム （*使用目的により濃度が変わります）	0.01～0.0125%（哺乳瓶）	洗浄後に1時間の浸漬
		0.02%（食器・まな板）	洗浄後に5分間以上の浸漬
		0.02%（リネン）	洗浄後に5分間以上の浸漬、その後に水洗
ヨウ素系	ポビドンヨード	10%	創傷部位・感染皮膚面の消毒
	ヨードチンキ	5～10倍に希釈	
第四級アンモニウム塩系	ベンザルコニウム塩化物	0.025～0.2%	創傷部位・手指・皮膚の消毒、適応濃度に注意
	ベンゼトニウム塩化物	0.025～0.2%	
両性界面活性剤系	アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩	0.01～0.2%	創傷部位・手指・皮膚の消毒

ビグアナイド系	クロルヘキシジングルコン酸塩	0.05～0.5%	創傷部位・手指・皮膚の消毒、適応濃度に注意
酸化剤系	オキシドール	3%	創傷・潰瘍の消毒
色素系	アクリノール水和物	0.05～0.2%	化膿部位の消毒



濃度については、使用濃度が変わると殺菌効果に影響が出るので、消毒効果を発揮させるには**定められた濃度**で正しく使用することが重要です。濃度が薄ければ殺菌効果が期待できず、濃すぎれば一般に殺菌効果は強くなりますが、副作用が起こることがあります。

★手洗い

感染予防の基本となるのが「手洗い」です。「**日常的手洗い**」とは汚れや菌を除去する手洗い方法で、石けんと流水で10～15秒かけて行います。「**衛生的手洗い**」とは、手洗いと消毒を行うことで、菌をすべて除去することを目的とする手洗い方法です。感染予防や食中毒予防のため、主に食品を扱う現場にて必要とされています。手指の消毒には手指消毒法があります。



手指消毒法	
洗浄法（スクラブ法）	手指消毒薬（洗浄剤を含むもの）を約 2-3ml 手にとり、よく泡立てながら洗浄（30秒以上）する。さらに流水で洗い、ペーパータオルで拭き取る。
擦式法（ラビング法）	手指消毒（含有消毒用エタノール）を約 3ml 手にとりよく擦り込む、（30秒以上）乾かす（液剤・ゲル剤）。
清拭法（ワイピング法）	消毒用エタノールを含ませた布または綿で拭き取る。
浸漬法（ベースン法）	ベースン内で洗う。交差感染することがある。

★新型コロナウイルス

新型コロナウイルスは自分自身で増えることはできませんが、粘膜などの細胞に付着して入り込んで増えることができます。粘膜に入り込むことはできますが、健康な皮膚には入り込むことができず表面に付着するだけと言われています。物の表面についたウイルスは時間がたてば壊れてしまいます。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつと言われています。



手洗いは、たとえ流水だけであったとしても、ウイルスを流すことができるため有効です。石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるので、更に有効です。また、流水と石けんでの手洗いができない時は、手指消毒用アルコールも同様に脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができます。

新型コロナウイルスに、0.05～0.2%に希釈した界面活性剤を20秒～5分間反応させるとウイルスの数が減少することが確認されています。

正しい情報を有効に活用しましょう。

